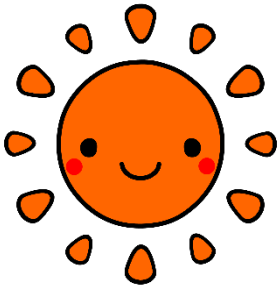

明日はきっといい日になる

仲嶺　真弓

2020 年度最終回のつばさっ子となりました。

コロナ状況に右往左往しながらも、気付けば、5 歳児の卒園を迎える時期になりました。ホールから聞こえてくる子どもたちの歌声とピアノの音色。今年度もいろんなことがあったとしみじみと思い出されます。桜咲く季節はすぐそこまできていることを実感します。

思い起こせば…　明日はきっといい日になる…いい日にする！　と思いながらコロナ禍の日々を過ごしてきました。　4～5 月は緊急事態宣言下の中で年長児の 1 人が、「友達に会いたい…」と言いながら、しくしく泣いていた姿が今でも心の片隅に残っています。このことをマイナスにとればそれまでだけれど、私はこの心の揺れも、子どもにとって大切な経験で未来に繋がると思っています。コロナがなければ、気付かなかった思いなのかもしれません。

夏の 5 歳児お泊り保育は、1 冊の絵本を題材に、空想の世界が広がりました。担任は、お泊り保育が終わった後も、絵本に登場する“かっぱのガータロ”とのやりとりを、日々の散歩や、取り組みの中で取り入れ、子どもの空想の世界を広げていました。ついこの間の 5 歳児のお別れ遠足でも、お泊り保育から続くストーリーを楽しんでいました。私はいつも担任に頼まれ、子どもたちが出かけた後に、ガータロからの手紙を所定の場所に置いておく役割を担っていました。ちょっとした役割ですが、これがまた、他クラスの子どもたちに見られないようにとドキドキしながらぞう組に向かうことが楽しくてしかたない。そんなときに限って、「仲ちゃん何してるん？」ときりん組の子どもたちが寄ってくるからスリル満点。ぞう組が散歩から帰ってきて、手紙を見つけた子どもたちの表情を想像しただけで、笑みが込み上げてきます。子どもたちの空想の世界が広がる取り組みに関われることはこの上なくありがたい瞬間でした。保育の中での子どもたちの体験は、どのクラスの担任も大切にしています。コロナ禍だからとできないことを数えるよりも、できることを見つけよう。子どもたちから聞かれた呟きはできる限り叶えようを胸に、各担任奮闘していました。就学前の子どもにとって日々の遊びこそが学びです。けれど、そのことをどれだけ保護者に伝えることができているだろう。そんなことをふと考えた 2 月でもありました。

コロナが落ち着いている合間を利用して、5 歳児保護者が自主的に開催した秋祭りレクリェーションもとても印象的でした。つばさが丘の夏祭りも中止になり、子どもたちのためにしてやりたいと保護者の思いで実現した秋祭りは、子どもたちの心にどんな思い出に残ったのか。卒園して何十年後かに同窓会をする機会があるなら、成長した子どもたちに聞いてみたいし、父母の思いがいっぱい溢れていたことを伝えたい思いです。このレクレーション終了後のある保護者からの一言も印象に残っています。「開催するにあたり、実際自分たちが主をとってやってみてよくわかったことがある。行事を 1 つするだけでもどれだけの注意事項を踏まえながら緊張感をもってやってくれていたかと。」　2020 年度は中止にした行事も多く、大切にしてきた保護者同士の交流も思うようにできませんでした。できる方法はないかを考え続け、実現できた行事はわずかでした。考え続け、くたくたになりながら、保護者からのこの一言を思い出し救われました。コロナ禍とは、まだしばらくは付き合っていかなければならないけれど、2020 年度の出来事を糧にして、大切にしていこうと思います。

東小学校前にて（おわかれ遠足）

雨の中、引率もありがとうございました。